

## ここにいること

この春、中学に入学した子どもの授業参観に行ってきました。学級活動の時間で、担任の先生は黒板に大きな模造紙を貼り、一つの詩をゆっくりと朗読されました。

「ぼくがここに」 まど みちお

ぼくが ここに いるとき  
ほかの どんなものも ぼくに かさなって  
ここに いることは できない

もしも ゾウが ここに いるならば  
そのゾウだけ  
マメが いるならば  
その一つぶの マメだけ  
しか ここに いることは できない

ああ このちきゅうの うえでは  
こんなに だいに まもられているのだ  
どんなものが どんなところに いるときにも

その「いること」こそが  
なににも まして  
すばらしいこと として

「まど みちおさんは、詩人として有名な方で、『ぞうさん』や『やぎさんゆうびん』などの童謡を書かれた方です。この詩を読んだ感想や印象に残ったことを話し合ってください。」

班での話し合いが始まりました。子どもたちは、机を合わせこの詩から感じたことを思い思いに出し合っていきます。しばらくして、「まどさんがこの詩を通して伝えたかったことって何だと思いますか。」先生からの声かけや促しもあり、子どもたちはこの詩に込められた思いを想像しながら、さらに意見を出し合っていきます。子どもたちが一生懸命に自分の思いを伝え、それを聴き合っている姿がすがすがしく、とてもいい時間でした。授業の最後に発表がありました。

「自分が『ここにいること』自体がすばらしい、なんてなかなか思えないけど、自分が誰にもかわれない存在だということがわかりました。」

「ちきゅうのうえでだいに守られているというところが印象に残りました。」

「人間だけじゃなくて、ゾウやマメのことまで考えたまどさんはすごいと思いました。」

子どもたちの発表が続きます。

その時、窓側の一番前で黙って座っていた生徒に、先生が発言を促しました。

「ぼくは…あまり…自分のことが好きではないんや。」

一瞬、教室が静まりかえりました。

「お兄ちゃんどちがって運動も苦手やし、勉強も得意やないし…あんまり自分に自信がありませんでした。けど、この詩を読んで、みんなの話聞いてたら、少しか自信ができました。」

教室は静かなままでした。けれど、そこには「わたしも一緒に気持ち」という、声には出さない共感という大きな返事が確かに返されているように感じました。

『ここにいることこそが、なににもましてすばらしい』

ついつい他の子と比較して、勉強もスポーツもと多くを求めてしまいがちですが、何かができるから大切なんじゃない、今ここにいるありのままのあなたが大切なんだよ、そんなメッセージを子どもに伝えられているだろうかと反省をしつつ、これからの学校生活を、今しかできないことに夢中になって過ごせるように見守っていきたいな、と思いました。